新聞掲載

奄美新聞　R4.7.14

〝先生〟は先輩、八月踊り伝授

東城小中 川内集落、名瀬川内郷友会

9月の運動会で披露へ

名瀬川内郷友会メンバーらが体育館中央で八月踊り・八月踊り唄を踊り、唄い、その周りで児童・生徒や教職員らが踊り、唄う練習を繰り返しました

「先輩たちが来校」八月踊り・八月踊り唄を伝授―。奄美市立東城小中学校（永井孝典校長、児童19人、生徒9人）体育館で8日、八月踊り・八月踊り唄の継承活動が行われました。先生は川内集落・山田紘一区長（住民）と、名瀬川内郷友会（福島賢会長）メンバー11人が務めました。児童・生徒は、9月の運動会での披露を目指し、この日までに3回練習し、8月までに合計4回練習を計画しています。

関係者によると、現在は校区内の川内、唄（川内）、おぼこ（名瀬）の踊りと唄を練習しました。児童・生徒は体育館内の暑さに負けない出身者が毎年交互に指導役を務めています。

同日は、山田区長、名瀬川内郷友会の福島会長、前会長の中江正孝さんらが参加。名瀬川内郷友会メンバーらが体育館の中央で、八月踊り・八月踊り唄を先導して踊り、唄い、それに合わせて児童・生徒、教職員らが体育館いっぱいに広がって輪になって踊り、唄いました。

「千鳥浜」（ちどりゃはま）、「稲すいりゃはま」、「八月ねどりる」（八月踊り唄を教えるの意）、「八月ねどり」（八月踊り唄）の順に踊り、唄い、ぶっぶっまくったが、踊り、唄とも難しい」と感想を語りました。

永井校長は「集落のお年寄りが伝統文化の指導をしていただきありがたい」と感謝しています。

山田区長によると、川内集落では、八月踊り・八月踊り唄を教えるのは1校時に、年間を通して開催している「シマ唄学習」もあり、新元一文さんが講師を務めました。

学校によると、同日は1、第3金曜日夜に公民館で開かれており、児童・生徒が合同で習っています。